

むすび

気象現象のモデル実験は昔から多くの人達によって試みられております。下手すると落穂ひろいに終わってしまうかも知れません。また相似則などの難しい問題もつきまといまいます。しかしモデル実験が非常によく似た様相を示すとすれば、気象現象の何等かの性質を再現しているに違いないと考えられます。私はどちらかと云えば、わかっていることを再現するよりも、実験結果から天然の雲の姿を予想し、その確認の手段として気象衛星の写真を利用する側にまわりたいと思っております。

目に見える気象現象ばかりを追いかけていたのでは、目に見えない大事なことを見落とす危険があります。しかし一目でわかることは一目で理解するにこしたことはありません。その意味で目に見えない気象現象を目に見

えるようにする努力も大切だろうと存じます。

本日は写真ばかりを並べたてて、ごまかしたみたいですが、藤原先生の喜ばれそうな仕事をえらんで紹介致しました。御静聴ありがとうございます。

参考文献

- 1) Picture of the Month, 1965: Monthly Weather Review, **93**, 416.
- 2) 同上, 1966: **94**, 258.
- 3) Terada, T. and second year students of physics, 1928: Some experiments on periodic columnar forms of vortices caused by convection. Report Aeron. Res. Inst. Tokyo Imp. Univ., **3**, 3.
- 4) Picture of the Month, 1964: Monthly Weather Review, **92**, 202.

関西支部だより

昭和42年度 大阪管区気象研究会 日本気象学会関西支部年会 プログラム

日本気象学会関西支部・大阪管区気象台 共催

会期: 昭和42年 6月22日, 23日

会場: 大阪市生野区勝山通 8丁目 生野区役所 3階講堂

研究発表題目

1. 大島正三(松山地気): 愛媛県の強風について
2. 長久昌弘(徳島地気): 紀伊水道北部の風波の予想
3. 宮崎本弘, 山口 享, 森下敏之, 橋本正義(神戸海洋): 紀伊水道の波浪推定 第1部(主として深海波)
4. 板根教圃, 金谷光三, 倉橋 彰(神戸海洋): 紀伊水道の波浪推定 第2部(主として浅海波)
5. 堀内俊彦(神戸海洋): 神戸港外の観測塔における風について
6. 永田二郎(奈良教大): 古文化財収蔵建築内の気象状態について
7. 東 修三(京都府大): 地面温度の日変化の最高および最低起時に対する一つのモデル的説明
8. 稲葉 優(松江地気): 線状エコーについて
9. 来海徹一, 浜田周作(広島地気): 松江レーダーを用いた夏期の解析例
10. レーダー係(室戸測・大阪管区): 梅雨前線による集中豪雨
11. 後町幸雄(京大防災研): 近畿地方南部の降雨について
12. 福原一雄, 山根成之, 浜田欣弥, 毛利茂春(清水測): 土佐清水の地形効果による大雨機構
13. 江尻 勲(岡山地気): 岡山県の雷雨とその予報
14. 市川清見(鳥取地気): 擾乱と鳥取の天気について
15. 柳本三治(京都地気): 7月1日~2日の近畿地方中部における大雨(メソ解析)
16. 鈴木 斉(松山地気): 寒冷高気圧に伴なう瀬戸内の雨について
17. 奈良地方気象台(奈良地気): 奈良県における雨調査の現状について
18. 和田徳弘(舞鶴海洋): 火災, 海難と気象
19. 杉井 徹(高知地気): 高知県における大雨災害について
20. 北村 進(西郷測): 防災気象の基礎調査(その1)
21. 佐藤 功, 中島和己, 稲浦 昂(大阪管区): 大阪市およびその周辺都市の低地浸水の問題
22. 渡辺正夫(潮岬測): Cold Low と潮岬における晴天持続日数について
23. 太田盛三(広島地気): 台風の進路予想について
24. 合田 勲(高松地気): 本邦付近の低気圧発達の問題

(249 頁へ続く)